

あいあいあい I eye 愛

2023 年

3 月号



2月3日 原発に関する座談会を開催(詳しくは本紙4～5ページで)

嘘と真実を見極めて 未来に出資しよう

理事 櫻井 洋子

12 回目の 3・11 を目前に控えた 2 月 12 日、河北新報の一面に踊る『女川原発再稼働「賛成」53%』の見出し。昨年までは反対が過半数を占めていた意見が今回賛成に大きく傾いた理由は「原発を再稼働すると電気料金が安くできるから」だそう。――本当にそうだと思いますか？

3 万人以上いらつしやいます。帰還する・しない、そして賠償金の有無で新たな分断が生まれ、壊されたふるさとのコミュニティは事故前に戻ることはありません。他の発電方法と原子力発電の最大の違いはこの「事故が起きた時、取り返しがつかないこと」だと思います。

電力会社の主張は、「原発を動かせばその分火力発電を減らせるので、価格の高騰している燃料費を抑えられる」というもの。決して原発の発電コストが安いからではないのです。原発の発電コストは、太陽光や風力よりも高く、そこには使用済み核燃料の処理費用も立地対策費も含まれません。福島原発の廃炉費用も今後どれだけ膨らむのかも定かではありません。しかし電力会社は、自社の出した損失を自社で償うことなく、事故の収束のため多額の税金が投入されています。この無責任な構造の中、あれほどの悲しみをもたらしした原発というエネルギー政策を再び繰り返すのでしょうか。

12 年前のあの時、日本中が、「これが原発の現実か」「原発は怖い」と思ったはず。それが今はどうでしょう。か。「CO2 を出さない原発は氣候対策になる」「再エネは不安定で電力を賄えない」「原発を動かせば電気料金が安くなる」等々：政府はしきりに電力ひっ迫と経済的不安を煽り、財力を武器にメディアを多用し、国民への「原発は救世主」とでも言いたげな刷り込みが進んでいます。それが本当なのか、嘘なのか、私たちはきちんと見極める責任があります。

12 年。これほどの長い年月を経ても、福島第一原発事故の処理は遅々として進まず、ふるさとに戻れず避難を強いられている方がまだ

4 月からほとんどの大手電力は値上げを実施します。様々な商品が値上げになり生活が苦しくなる中でやっと払う電気料金を、未来のない原発に使い、後戻りできない道をたどるのか、本気で再エネを推進するのか。今、私たちは最後の岐路に立っていると思うのです。

CONTENTS

▶ 総代懇談会 開催報告	…2	▶ 脱原発市民座談会	…4-5	▶ コロナ見舞い BOX に感謝の声	…7
▶ 「教育と愛国」上映会	…3	▶ ええのえんのう 最終回	…6	▶ 生産者さんにあいに行こう特別編	…8

総代懇談会 2回にわたり開催

毎年6月に開催している総代会にて、あいこープの事業と活動について話し合い、議決をする組合員の代表、それが「総代」です(22年度現在153名)。総代会とその前の議案書説明会だけでなく、「もつと総代の意見が事業や活動に反映されるしくみ」と「総代同士の交流の場」を模索するべく、初めての試みとして「総代懇談会」を開催しました。



1月19日(木) @エルパーク仙台

エルパークのスタジオホール会場では、15名の総代を含む18名の組合員が参加しました。

高橋千佳理事長のあいさつと、2025年ビジョンの中間報告の後、泉B地区委員の千田真紀さんによるオーガニクの生演奏が披露されると、会場が穏やかな一体感で包まれました。



オーガニク奏者の
千田真紀さん



温かい雰囲気の中、プログラムはメインのグループワークへ。事前のアンケートに基づき「人」「食」「環境」「協力の力」の4つのテーマに分かれた参加者は、「10年後のあいこープが『こんな風になつていたらいいな』と思うこと」、「それを実現するために、これからあいこープにできることは?」というお題について、アイデアをふせんに書き込んでいきます。

最初は「うーん」と考え込んでいた参加者も、他の人の話に「なるほど、私もね〜...」と話し始め、会場は徐々に白熱。50分のグループワークが終わる頃には各チームの模造紙にはたくさんのふせんが並び、一同「もつと話したかった〜」



ワークショップの様子

1月31日(火) @オンライン

2回目はZoom(ズーム)を使ったオンラインで、13名の総代が参加しました。基本的な流れはエルパークの時と同じ。

パソコンやスマホ越しに「ブレイクアウトルーム」の機能を使ってグループワークを行いました。「やっぱり対面の方が盛り上がるよね...」といつも、皆さんのご協力で各グループ活発な意見が交わされました。



今回、手探りで初開催した総代懇談会。参加者へのアンケートでは「もつと話を深掘りする時間がほしかった」「事前にお題がわかっていればもつと準備できたのに...」などのご意見もありましたが、次年度以降の総代懇談会の開催については、全ての回答者から「ぜひ続けてほしい」または「改善点はあるが開催した方がよい」との答えをいただきました。

理事会では今回集まった総代の皆さんの多様な意見をふまえ、議案書づくりが進んでいます。この議案書を審議する23年度の総代の立候補期間は3月31日まで。あなたも総代として、あいこープの活動に参加してみませんか? 詳しくはあいこープみやぎコールセンターへお問い合わせを!

当日出た意見の一部をご紹介します

- ・【10年後はこんなあいこープに】
- ・あいこープのレストランがあつたらいいな!
- ・あいこープの認知度アップ、組合員5倍!
- ・えんのうに関わる組合員が増えてほしい!
- ・オーガニックの取り組みが広がってほしい!
- ・高齢者や単身世帯向けの商品・サービス充実
- ・学校給食にもオーガニックの取り組みが広がってほしい!
- ・環境負荷ゼロのWa!わあ祭り開催!

【夢を実現するため、これからあいこープにできることは?】

- ・もつと気軽に「えんのう」に取り組めるしくみ作り、えんのうの有償化
- ・今は配送エリアに入っていない場所にもお届けができるようなしくみを作る
- ・脱プラスチックの取り組みをもつと進める
- ・高齢になつても利用し続けられる商品づくり
- ・あいこープ内部のおさがりクラブ
- ・「食」を大事にしている幼稚園や助産院等とつながりを持つ
- ・環境や農業に関する課題に対し、あいこープの政治への発信力を強化
- ・地域の学校に対し、オーガニック給食の取り組みをすすめる
- ・参加しやすい交流イベントで「孤独な組合員」を減らす工夫を



たくさんの
「ふせん」!
ご意見ありがとうございました

「教育と愛国」上映会

1月27日 宮城野区文化センター
パトナシアター

数日前の雪がまだ路面で凍る中、午前・午後の開催でゲストや一般を含む70名の参加がありました。子供達が毎日のように授業で使う教科書に政治的な圧力がかかっていることを実際の関係者からの証言で構成された衝撃的な内容で、鑑賞を終えた参加者からはたくさんの熱い感想が寄せられました。

政治家たちは「日本人のアイデンティティや愛国心を育てる」と言いますが、愛情や感謝の気持ちは人に教えられる育つものとは思えません。そんな表面上の脆弱な愛国心など「今まで鬼畜米英と教わったのは何だったのか」というかつての戦後のように簡単に揺らぐのでは？と、それこそ学校でさんざん歴史を学んだ私には思えます。



書籍の販売も行われました

作品の中で「歴史から学ぶものなどない」と言い切ってしまう歴史学者の大学教授のシーンもありました。従来の教科書では偏った左翼を育てると危惧するのであれば、個々の感覚・思想を排除した『事実』のみを伝える事こそ大切ではないでしょうか。

海外は「人権教育」や「人と違う考えを発言できる人や社会を」に重きを置き、多様性重視の中で「政治的圧力の中で同じ価値観を持った子供達」を育てようとしている今の日本がどこへ向かっているのか：背中に冷たいものが走る映画でした。

理事 辻朗子



広い会場で間隔を空けゆったり鑑賞

Wa! わあ祭り
おかわりっ
特別企画

あまり「チョコ」の苦い現実!?

“フェアトレードチョココレート”
オンライン学習会を開催しました♪

お正月明けの1月12日、昨年末に行ったフェアトレード学習会に引き続き、第2弾「フェアトレードチョココレート学習会」をオンラインで開催しました。オルター・トレード・ジャパン(ALTJ)の力カ才担当・若井さんを講師にお招きし、理事を含めて22名の参加者が「パプアのチョココレート」について学習しました。

チョココレートの原料となる力カオの栽培や、チョココレートの製造方法、植民地支配や奴隷制と一体の商品作物としての歴史、今でもある児童労働の問題や、身の回りにある安いのチョコの内情：：などなど、「知らなかった！」のオンパレードです。そして話題はALTJの「民衆交易」(ATJ)では自社のフェアトレードの取り組みをこう呼んでいます)の一つ、インドネシア・パプア州の力カオへ。まんま通信では「チョココラ・デ・パプア」や「パプアクラフトチョココレート」などがバレンタイン時期などに限定で扱われます。

理事 石井 朱里



学習会の様子



ALTJ 職員とパプアの生産者

特集

東日本大震災から 12 年

福島第一原発事故から 12 年

壊滅した女川 がれきの中で反原発を叫んだ

あれから12年 わたしたちは「原発のあるふるさと」を 受け入れるのか



たった 12 年前、あれほどの過酷事故を経験しておきながら、政府の原子力政策は、戦争による原油高騰や脱炭素を大義名分に「原発を動かす・長く動かす・新しく作る」と、常軌を逸した方向へ進んでいます。

2 月 3 日、あいコープみやぎ脱原発委員会メンバー 10 名と、あいコープみやぎ顧問の多々良哲さん、そして「女川から未来を考える会」代表の阿部美紀子さんによる【怒れる市民の座談会】が開かれ、白熱した意見が交わされました。



多々良 哲(たたらさとし)さん

あいコープみやぎ顧問。学生時代、先輩の誘いで女川原発の建設に反対する運動に参加し、女川の漁民の「怒り」を目の当たりにする。以後、原発の操業差し止めに関する運動や、震災後は女川原発再稼働の是非を問う住民投票を実現する運動などに精力的に取り組む。



阿部 美紀子(あべみきこ)さん

宮城県牡鹿郡女川町生まれ。‘70 年代から、父・宗悦さんが率いる「女川原発阻止闘争」に参加し、以来ずっとふるさと女川を守るために活動を続けてきた。震災後は女川町議会議員として、反原発の立場から議会でも意見し続けている。【女川から未来を考える会】代表。

50年前 女川で起きた漁民と電力会社の闘争

阿部さん(以下「阿」): (自身が編集した書籍「原発のまち50年のかお」を参加者に見せながら) …70年代の、女川原発建設に関わる闘争は凄まじいものでしたよ。漁業権を守り着工させまいとする漁協の、総会の委任状がお金で売り買いされ、自分と同じ原発反対派だと信じて委任状を預けた相手が賛成に寝返るような裏切りもあり、漁民が分断されました。その後も、私の1歳の娘を差し止め訴訟の原告にしたりしました。「どうしてまだ意思のない子どもを原告に？」の問いには「未来はこの子のものだから、この子は原告なんだ」と答えました。「あの子のお家は反原発だから、あの子と遊んじゃいけないよ」なんて言われたりもあってね…原発が生んだ住民同士の亀裂は埋まらず、悲しい思いをする人も多かったです。

脱原発委員(以下「委」): 原発の町はどこでもそうですね。原発は住民を分断する。「原発に反対すると息子の就職先はないぞ」って脅されるとか、怖い話だと、反対する人の命が狙われたなんてことも聞いたことがあります。



阿部さんの編集した書籍 (発行：一葉社)

そんな「悲しみ」「苦しみ」を背負い動き出した原発は 2011年、あの大地震と津波で「被災原発」となった

阿: あのと、なにもかも瓦礫になった女川の町で、親せき宅や避難所を転々となりました。高齢の親には長引く避難所暮らしは体に堪えると思い、鳴子へ二次避難することにしたんです。けれど、「反原発の想いを示さずに女川を離れられない!」と、

瓦礫の山から出てきたモモヒキにマジックで『原発反対』の文字を書いて瓦礫の中に打ち立てました。奇しくもチェルノブイリ原発事故からちょうど25年の4月26日でした。



モモヒキに書かれた「福島を教訓に」「女川原発反対」の文字

掲げているのは美紀子さんの父・宗悦さん(右)

(「原発のまち 50 年のかお」より)

多々良さん(以下「多」): 女川原発は震源に一番近かった原発。いま、最も危ない原発。3.11の福島第一原発事故の後、誰もが「もう原発はごめんだ」って思ったはずでしょう。なのに今、再稼働の是非と関係ない、ロシアのウクライナ侵攻による原油高、電気代高騰に乗じて、国民の不安を煽り、国は完全に原発再稼働…どころか運転期間延長、あろうことか1兆、2兆円かけた新型炉を増設するなんて夢物語まで語りだしたわけです。どうかしているとしか思えない。

原発がクリーンだなんてみんな信じてるの？

委: 私は、今は脱原発活動してますが、3.11まで原発はクリーンなエネルギーだって信じていたし、危険だとも思いませんでした。最近政府が「グリーントランスフォーメーション(GX)会議※」なんて開いて、再び、原発はクリーンだ、利用しよう!って言ってますね。

一同: 「「GX 会議!!あれは唐突だったよね~!!!」」

※グリーントランスフォーメーション会議・・・昨年 12 月に政府が開いた会議。脱炭素を目的とし「原発を最大限活用する」ことなどを決定した

阿: 原発は海水温より 7℃も高い温排水(発電に使った蒸気を冷却するため循環する海水)を 1 秒間に60トンも海に出すんですよ。海水温が上昇して異常気象だと言っておきながら。原発はしっかり生態系に影響を与えているのに「CO2 を出さない」だけを訴えるのは矛盾です。

多: 政府はカーボンニュートラル(脱炭素)を錦の御旗として掲げていますが、そこに「ちゃっかり」原発を入れていますね。GXの「G」はグリーンG じゃなくゲンバツの G じゃないかと揶揄されています。

委: この12年もの間、原発再稼働のために使うお金、例えばテロ対策にかかる多額の費用を再エネの普及に使えば、とくに安全な再エネ発電所が増えてただろうに…

委: 原発が無くなると立地自治体に雇用が無くなるって言うのも嘘よね。廃炉作業にたくさんの時間と人手が必要で、あとは再エネで雇用が生まれるわけだし。

多: そう。廃炉にして廃炉交付金をつくらばいいだけの話。

「反対」って思ってるのに言えない町

委: 女川では原発の話はタブーってムードなんですか？

阿: タブーです。みんな心の中では原発イヤだと思っていでも口には出せない。震災後、ある人を《原発反対》のステッカーがいっぱい貼ってある私の車に乗せる機会があって、その方、原発推進派の方だったから「反対派の車ですけどいいですか」って言ったんです(笑)。そしたらその方は、「今どき…福島の事故見たら、誰も原発賛成って言う人いねえでねえが?(いないのではないか?)」って言うの。その通りですよ。それでも「うちの娘が原発で働いてるから、あんまり原発反対ばかり言わねえでけろ」と言う方もいる。同じ県内でも、女川と仙台それぞれの人々が、互いを知らないなど感じます。女川では、仙台で脱原発デモ行進などが行われてるのを知らない人も多いです。仙台では、女川の人が高声に「反対!」って言いにくい雰囲気だと知らないでしょう。

委: 女川の方々の「生活があるから反対できない」とか「交付金のお陰で暮らせてるんだし…」みたいな、反対することを許されないムード、どうにか解消できないかなっていつも考えます。

阿: 交付金ね、あれも原発立地自治体への交付金来ない自治体には、その分、地方交付税が下りるんです。それなのに「原発無くなったら交付金来ないんだぞ」って伝えられてるわけです。原発サミット※で他の自治体の人に聞いても「財政難だ、早く再稼働してほしい」って声ばかり。私思うんです。原発のせいでなんだかもっと貧しくなっていませんか?って。

(一同、そろって大きく頷く)

※原発サミット・・・全国原子力発電所立地市町村議会議長会により隔年で開催されている会議

多: 世論を作ることが大事ですね。みんなで討論して、合意して、民意になるっていうね。世論作りが必要。

委: うちの委員会のメンバー、若いんだから全員議員になっちゃえばいいのよ!地方から世の中を動かさないといけな!

闘いではなく 創る運動を

委: 再稼働の足音が近づいています。このままじゃ市民がみんな、いいように騙されたまま女川原発は動いてしまいます。どうすれば…?また闘争になりますか？

阿: 50年前のような闘争はできないと思います。けれど闘うのではなく、新しい未来を「つくる」運動をしたい。ブナの森を守るために山を整備して植林する運動のように、【女川から未来を考える会】として運動を進めているんです。女川「の」未来を作るのではなく女川「から」社会全体の未来をつくるという言葉の意味はそこにあります。

先日の町議会で「女川の基幹産業は何ですか?」と町長に聞いたら、町長は「水産業です」と言ってくれました。それが答えです。女川の基幹産業は原発じゃない、水産業なんです。それを守って行こうと思います。

多: ひとりひとりが民意をあらわし、世論を作り、世の中を変えていきましょう。まだ間に合う!

3月25日土曜日に「さようなら原発宮城県民集会」開催 組合員みんなで参加しよう





あいコープ組合員の皆さんの集合場所は、勾当台公園市民広場ステージ前!ピンクののぼりが目印です。14:00~14:30 の間にお越しください。あいコープの理事たちがお待ちしております。

2021年4月から2年続いた
 仙台えんのう倶楽部の情報を毎月お届けするこのコーナーは
 今回で最終回となります。
 第24回目は中目浩司さんの報告です。



農家の皆さんに感謝！（中央が中目さん）

私がえんのうの活動に参加したのは、自分たちが普段食べている野菜がどのようにして作られているのか間近で見たい、という軽い理由からでしたが、実際に活動に参加してみると、様々な気づきの連続でした。無農薬で安全な農作物を作るのに、こまごま手間がかかっているのか、という点が驚きで、炎天下で雑草を抜いたり、茎を麻ひもでつなぐ作業をしたり、種をまいてネットをかけたリ……。充実した作業でしたが、やはり大変なものがありました。

特に、田んぼでの稲の間の雑草取りは、過酷そのもの。どろんこまみれになりながら一時間格闘して、抜いた雑草は全体から見ればごくごく僅か。農家の皆さんはこういった気の遠くなるような地道な作業を、しかも商品としての高い品質を満たしつつ、なさっているのかと思うと、本当に頭が下がる思いでした。またそこから、私達人間は、自然の前では無力でちっぽけな存在なんだと痛感しました。スーパーでお金を出して野菜を買うのは簡単です。ですが自然と向き合い、野菜を自分の手で育てようとするならば、たとえネギ一本収穫するのにさえ、土を耕し、苗を植え、肥料をやり、天候を気にし、雑草を取り……と、長いプロセスが必要で、そのことを思うと、とても謙虚な気持ちになり、普段口にしてる農作物に対して「ありがたい」という気持ちを持つことができました。それがえんのうの活動に参加した一番の収穫だと感じています。これからも自分の手で野菜を作る充実感とともに、感謝の気持ちを育んでいきたいと思っています。

仙台えんのう倶楽部 メンバー募集

仙台えんのう倶楽部の活動は

- ◆自分たちの畑で野菜を作る
毎週火曜日（仙台市若林区）
- ◆農産産地のお手伝いをする
（産地の要請により日程が決まる）

の二つです。いずれも都合の良い日にご参加ください。

- ◆会費 7,000 円/年（予定）
- ◆募集 随時
- ◆お問い合わせ
あいコープみやぎ
Tel 0120-255-044 豊嶋



機関紙「あいあいあい」でえんのう倶楽部の活動が継続的に紹介されるようになって、多くの皆さんに「援農」を知っていただくことができました。このコーナーは、今月最終回を迎えましたが、今後は「えんのうニュース（仮）」を定期的に発行して引き続き活動の様子をお伝えしていこうと思っています。

農作業は決して楽なものではありません。しかし、それ以上に充実感や喜びを与えてくれます。作物栽培に興味がある方、農産産地のお手伝いをしてみたい方、是非一緒に土にまみれてみませんか？

仙台えんのう倶楽部
高野恵美子

組織概要

（2023年1月分）

【組合員数】	15,860 名
【供給高】	199,148 千円
【一人実利用高】	5,689/週
【出資金】	1,345,134 千円

2023年2月7日（火）
 理事会議事録抄
 ▼2月以降の組合員活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について決定した▼2023年度議案書説明会の開催方法を承認した▼2023年度委員オリエンテーション企画案を承認した▼学習会「あの日突然戦争が始まった。」そうならないために「（仮）企画案を承認した▼2022年度農産報告会企画案を承認した▼原木しいたけ見学会企画案を承認した▼組合員の農業体験企画案を承認した▼これからの養豚プロジェクト立ち上げを承認した▼石けんアクション企画案を承認した▼コロナ感染者お見舞いBOXの終了を決定した。

誰もが安心して暮らせる社会を

コロナお見舞いBOXは

3月31日までにお申し込みください。

コロナお見舞いBOXは、症

とされます。

状に関わらず感染防止のために療養した組合員にお見舞いの気持ちを伝えるジョイケア企画として昨年4月から実施してきました。2月9日時点で456件の申請を受け、2月2回までに285名の方にお見舞いBOXをお届けできました。残りの方にも順次お届けしています。アンケートからはお見舞いBOXが組合員同士のたすけあいのしくみであるジョイケアシステムについて改めて考えて頂ける機会になったことが伺えます。

政府は新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類を、現在の「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げる変更を5月8日から実施することとしています。2類相当の現在でも、すでに感染者の全数把握は終了し、外出自粛などの呼びかけも行われています。5類に変更になれば入院勧告や就業制限も行われなくなりマスクの着脱も個人の判断

- ① 3月31日でBOX申込の受付を終了。
- ② 4月3日からの週で、申請書の最終配布。
- ③ 4月28日申請書の受付終了。
- ④ 5月2回でBOX最終お届け。

コロナお見舞いBOXのお申込みはジョイケア事務局まで。
Tel 0120-507277

私のオススメ商品



私のおすすめの商品は「キウイフルーツ有機栽培」です！好きな方も多いと思いますが、皆さんはどのように召し上がりますか？

最近自宅でサムギョプサルを作りました。キウイは手

軽に食べられるので良く食べるのですが、「肉と果物は合う物が多いからキウイも美味しいはず！」と思い具材の一つに入れてみたら、程よい甘酸っぱさがとても美味しく、新たな発見がありました！キウイはビタミンCも豊富なので、たくさん召し上がって頂き、体調を整えて今年も頑張っていきたいです！

事業部 供給課 菊池 修平

編集後記

原子力規制委員会が、60歳を超えた原発も一見元氣そうなら働かせると決めた。全員一致ではなく多数決だそう。これほどまでに原発を動かそうと頑張るパワーを再エネ推進に使えば、もうとくに、純国産の日光や水や風で世の中が動いていたのでは？

今までの誤りを認め方向修正せよ。「我が子に長年お金をかけてパレエを習わせた手前、芽が出ないのに今更やめられない」と本人も苦痛なレッスンに投資し続けるより、頭切り替えて絵画を習わせたなら、世界を幸せにする絵を描くかもしれない。

広報担当理事 鈴木真奈美

委員さん募集中！

あいコープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか？

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当：組織運営室長 豊嶋)



組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00～16:00

年金相談・4/11(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30～15:30

法律相談・4/11(火)、4/19(水) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30～15:30

傾聴・4/11(火) NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏

10:00～12:00

子ども相談・4/18(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00～12:00

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏) は相談希望日をうかがいます。

▼随時予約可能です▼各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2023年1月分)

ささえあい(保険)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	8件	利用延べ人数	4名
集団託児	3件	◆ケア時間	
慶弔・出産・お見舞いBOX	28件		23時間
電話相談窓口	9件	*Covid-19の為、活動を	
計	48件	制限していました。	



●グループワークの時間はもう少し長くても良いと思います。2025年ビジョンの中間振り返りは良い企画!!続けてください!!本当に多くの人に知ってほしいです。(総代懇談会参加者感想)

「生協の原点」がここにある

あいコープが水俣の甘夏を届け続ける理由

2月3回のまんま通信の表紙を飾った「水俣・きばるの甘夏」は、水俣病と関連が深く『生協の原点』のひとつと言われます。この商品を紹介するにあたり「ネットや電話取材で得られる情報以上のメッセージを組合員の皆さんに伝えなくては」という想いに衝き動かされ、生協職員2名が水俣の地に降り立ちました。

▼約70年前 熊本県水俣で何が起こったのか

訪れたのは「坪谷(つぼだん)」と呼ばれる小さな漁村。目の前に広がる水俣湾に、化学工業メーカー「チッソ」の工場から有毒なメチル水銀を含む工場排水が直接流れ込んだのです。水俣病の最初の公式確認とされた患者は、ここに暮らす5歳と3歳の幼い姉妹でした。

毒に汚染されていることも知らず、目の前の海で獲れる魚介類を日々食べて育った二人は、1956年、立て続けに発症。姉は発症から3年経たずに亡くなり、妹もメチル水銀によって脳の神経が壊され、奇行を繰り返すようになり、ついには言葉も失ってしまったと聞きました。企業発展の陰に、廃棄物によって人生を奪われ、苦痛を背負わされた人々がいる現実を突きつけられました。現場で聞いたことで、水俣病を「自分ごと」として捉えはじめた瞬間でした。



お会いできた甘夏生産者の皆さん
(中央が佐藤春夫さん)

▼命と暮らしを守るために 一生協のはじまり—

「自分や家族の命、暮らしを守る」ために、加害事実を認めないチッソや自治体を相手に声を上げる患者たちに、全国から支援者も現れました。現在「生産者グループきばる」の事務局である高倉さんらも、支援者として関東から水俣に移住。水俣病患者の救済の一環として、水俣の甘夏を全国に届けはじめます。「水俣病患者が作る甘夏を売ってほしい」というその声に応え、宮城の支援団体も甘夏販売を始めました。1978年、宮城での活動を担ったその人物こそ、「仙台共同購入会(現・あいコープみやぎ)」を設立した仲間の一人であり、甘夏は「家族に安全・安心な食べ物を」と願う母親たちのための大切な産直品になりました。



甘夏実る園地から不知火湾を望む

▼被害者と加害者が隣り合うまち

水俣病の発生により、水俣の魚には値がつかなくなり、父の後を継ぎ漁民として生きる道を閉ざされた佐藤春男さん(77才)は当時18歳。水俣病患者となった父親を支え生きるため、加害企業から提示された就業補償を利用し、チッソの関連企業に勤めることを選びます。

同じ頃、国と自治体が主導する農業改善事業で山を切り拓き苗木を植え、甘夏栽培が始まりました。佐藤さんはチッソで働く傍ら当時から甘夏を作り続け、60歳の定年を期に専業農家に。今でもあいコープがお届けする「生産者グループきばる」の甘夏生産者の一人です。

佐藤さんは症状がありながらも患者認定されていません。「若い時に検査を受け、申請をしていれば自分も認定されたかもしれない。でも、チッソに勤めている以上受診が憚られた」と言います。被害者と加害者が隣り合い、共存する複雑な状況があることを知りました。



3月3回
58 きばるのトライ・甘夏3個
※3月4回
まで取扱い



生産者グループきばる事務局
高倉史郎さん

▼共通項をもつ社会問題に向き合う【生協】の意義

経済優先の倫理を推し進めた結果、罪なき人々が健康、人権、そしていのちを奪われてしまった現実。この問題は、原発、農業、遺伝子組み換え作物など、社会を取り巻く様々な問題とも重なり合っています。水俣で活動してきた患者たちと支援する人々の取り組みは、私たち生協の基本理念『人・食・環境を大切に持続可能な社会』の実現に通じていました。

当事者の生の声で知ることができた、人々が互いに支え合い行動した「生協の原点」。現地に赴いたことで「きばるの甘夏を生んだ水俣病は生協の原点の一つ」という言葉が初めて腹落ちしました。生協の役割は、自分たちの目で見定め、大切な人を守るために皆が繋がり、行動すること。命と暮らしを守るための活動なのだと実感しています。 《商品部 板橋 聡・千葉 ゆか》

Present アンケートプレゼント

機関紙あいあいあい3月号のご意見ご感想をお寄せください。抽選で3名の方にあいシテル商品をプレゼント!

右のQRコードからどうぞ。

(当選は賞品の発送をもってお知らせいたします)



女川原発が止まってから

4374 日目

(2023年3月1日現在)